

水上村第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【区分①：自立支援、介護予防、重度化防止】

市町村名	取組テーマ	第8期目標				R3年度(2021年度)実績				
		目標設定時点における現状と課題	具体的な取組	目標	計画記載ページ	実施内容	目標達成状況・自己評価	達成度合	課題 (目標の達成状況に関する理由や原因等)	課題に対する改善策 (R3(2021)年度以降)
#REF!	①健康づくり・介護予防	<p>・2025年まで後期高齢者人口は減少傾向であるが、高齢化率は増加傾向にあり、医療と介護の両方を必要とする人の増加や認知症高齢者の増加が考えられるため、後期高齢者が要介護状態にならないよう、介護予防の取組が重要。</p> <p>・しかし、村内には公共交通機関が少なく、既存の介護予防拠点(村内3箇所)に、高齢者が継続的に通うことは困難であり、歩いて通える拠点づくりが必要。</p>	<p>高齢者が自発的な介護予防の取組ができるよう、行政区毎に住民主体の「通いの場(週1回以上開催)」の参加を推進する。</p>	<p>令和5年度までに全高齢者の3割の参加を目標とし、通いの場の拡充に努める。</p> <p>令和3年度目標値 237人(26%) 令和4年度目標値 258人(28%) 令和5年度目標値 277人(30%)</p>	P36	<p>・既存の地区には年1回の体力測定を実施・評価。また、高齢者いきいき体力アップ促進事業として、参加回数に応じポイントを付与し、年度毎に報奨品を贈呈し、参加意欲の増進を図る。</p> <p>・活動拠点の施設整備(公民館手摺り設置、段差解消、空調設備等)を、1カ所で行った。</p>	<p>通いの場参加登録者数:令和3年度224人 令和3年度末高齢者数:898人 高齢者に対する参加者の割合:24.9%</p>	○	<p>・参加登録者のうち、健康上の理由以外の理由で自発的に参加をやめる人が各地区で散見されていたが、介護予防活動への参加回数に応じたポイント発行により、参加の動機付けになった。</p> <p>・参加者の減少により、休止する地区が見られた。また、新規の参加が少ない。</p> <p>・未実施地区では通いの場に対する認識、リーダーの育成、介護予防効果の周知が必要。</p>	<p>・昨年度に引き続き、通いの場を含めた介護予防活動の参加回数に応じ、ポイントを交付し、参加意欲を高める。</p> <p>・単独での開催が困難な地区においては、近隣の区と合同の開催ができないか介入し、調整を図る。</p> <p>・通いの場が実施されている地区には回覧等で広報し、気軽に参加できる環境づくりを行う。</p> <p>・未実施地区の参加を促すための介護予防効果の丁寧な説明・周知や啓発を行う。</p>
#REF!	①健康づくり・介護予防	<p>2025年までに地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっている。リハビリテーション専門職が関与することで、さまざまな介護予防事業や地域ケア会議での実践・充実を図り、効果的な地域展開が期待できる。</p>	<p>地域ケア会議や運動教室等へのリハビリテーション専門職等の関与の回数を増やし、地域における介護予防の取組の機能強化を図る。</p>	<p>リハビリテーション専門職等の地域ケア会議や運動教室等の関与回数</p> <p>令和3年度目標値 15回 令和4年度目標値 20回 令和5年度目標値 25回</p>	P36	<p>・通いの場において、体力測定時にリハビリテーション専門職を派遣し、効果的な測定方法や継続的な参加を可能とする運動方法や認知症に関する講話を行った。</p> <p>・介護予防教室において、定期的にリハビリテーション専門職に介入して個々に応じた指導を行った。</p> <p>・地域ケア会議やサービス調整会議にリハビリテーション専門職が同席して、専門的な視点からの助言を行った。</p>	<p>・介護予防教室へのリハ職の関与回数(理学療法士3回、作業療法士9回)</p> <p>・地域ケア会議・サービス調整会議への参加回数(理学療法士13回、作業療法士1回)</p>	◎	<p>令和3年度から包括支援センターに理学療法士が配置され、通いの場や地域ケア会議等への関わりが容易になり、より効果的な介護予防活動の推進が図れた。</p>	<p>通いの場に関しては、実施地区全域関与には至っていないので、包括支援センターやリハビリテーション広域支援センターと連携し、令和4年度以降も積極的な関与を実施していく。</p>